

子や孫と一緒に 暮らせるまち

（人口減少に歯止めを）

南大隅町長

森田 俊彦

大隅半島の最南端に位置し、温暖な気候と三方を海に囲まれた風光明媚な景色や豊かな自然を感じられる南大隅町。約214平方キロメートルの風土の中に、山間部と沿岸部にコミュニティが数多く存在し、地域の人々の生活が息づいている。鹿児島県内で高齢化率が最も高くなっている同町だが、どのような健康づくりに取り組んでおられるのだろうか。森田俊彦町長に、健康に暮らせるまちづくりへのビジョンやご自身の健康法等について、お話を伺った。

高齢化と人口減少に対する課題と取り組み

——南大隅町における健康に暮らせるまちづくりへのビジョンについてお聞かせください

本町は、南大隅町第2次総合振興計画に沿って全ての町民が健康的に仕事や生活が見えるよう様々な取り組みを行つております。人口の推移は、平成17年「平成の大合併」では1万432名でありましたが、令和2年3月1日では7027名と15年間で3405名の減少となっています。高齢化

率につきましては、令和元年3月1日現在、65歳以上が48・6%と県内でトップとなり、長寿の町となっています。若者の流出をいかに

に食い止めるか、Uターン、Iターン者をいかに増やしていくか毎年の課題となっています。

人口減の曲線を緩やかにするための一環として、関西南大隅会及び関東南大隅会との連携など、県外へのPRを行い、本町に興味を持つていただき、最終的には移住を望む方々を一人でも増やしていくため、空き家バンクへの登録の推進やお試し住宅の提供を行い、受け入れ体制の強化も図っているところであります。

また18歳までは医療機関での窓口負担分の無償化を行つており、子育てのしやすい町づくりを目指しているところであります。町民の皆様が安心して、健康であり続けるには日頃の生活習慣の維持または改善が不可欠であることから、特定健診をはじめ各種健診の実施、健康祭りでの血圧測定、国保連合会の備品も活用し脳年齢測定等を行うなど、健康意識を高めていただき、すべての高齢者が本人の意思に基づいた生活を人生の最期まで続けることができるように計画しております。

高齢化率が高いことは、後期高
齢者医療、介護保険、国民健康保
険ともに医療費が大きく膨れ上が
ることが懸念されており、特に國
民健康保険事業では平成30年度の
一人当たりの医療費が49万2千円

台に突入し、県内ワースト7位と
なり令和元年度においてもそれを
上回りかねない状況となっています。
そのため、医療費を削減する
ため特定健診・特定保健指導の充
実を図り、重症化予防として早期
の医療機関受診促進及び維持を認
識していただく必要があると考え
ます。

高齢者医療では国は令和6年度
までフレイル（虚弱）対策として
医療専門職等（保健師、管理栄養
士、歯科衛生士など）を配置し取
り組むよう目標を掲げています。
今後は後期高齢者医療係、国民健
康保険係、介護予防担当が更なる
連携を図り取り組む必要があります。
本町でも保健師不足のなかでは
ありますが、町民の健康維持のた
め様々な事業や取り組みを今後も
引き続き行つてまいります。

また、本町で保健師として働い
てみたいと思われる方は、是非、
ご一報ください。

力を入れておられる取り組み

や、特色のある取り組みについて
お聞かせください

わが町の特定健診受診率は、こ
こ数年59～61%台をキープしてい
る状況で県内でも高い受診率で推
移しています。

町民の意識付けとしまして事前
申し込み制度を取り入れています。

かかりつけ医のご協力とあわせ
て、雇いあげの3名の看護師が、
2人1組で各家庭を訪問し、健診
の申し込み時点で受診しない方・
未記入の方にのみ受診勧奨をし、
かかりつけ医で受診の方には情報
提供のお願いをしています。情報
提供の同意もここ数年定着しつつ
あります。情報
も多いので今後の課題と言えます。

また、全体的な健（検）診受診
率向上と健康づくりの取り組みと
して平成26年度から実施していくま
す「健康マイレージ事業」があり
ます。

健診結果によりメタボ気味の方
を対象に健康教室を開催し、最初
と最後に体重と腹囲を図り、結果
の良くなかつた方は次年度も引き
続き参加できるなど柔軟に対応し
ています。

また、最大夜7時30分までの夜
間健診や3年目（連続受診）無料
1～2ポイント等を付与していま
す。

10～20ポイント獲得者の中から
抽選やポイント数に応じて最大3
000円の町の商品券に交換しま
す。



「健康マイレージ事業」ポイント獲得者から抽選で商品券に交換

修しミニカフェやお土産品店を
修みます。

しを行つてもらう。(3)寂れた商店
街の活性化にも繋がる、と多方面
にメリットがあるのではと思いま

P.R.しながら観光客のおもてな
しが行つてもらう。(3)寂れた商店
街の活性化にも繋がる、と多方面
にメリットがあるのではと思いま

基本的なことをしつかりと

——町長ご自身の健康について、普段から心がけていらっしゃることがありましたらお聞かせください

このご時世ですから、基本的なことには特に気を付けています。手洗いうがいをこまめにする、バランスのよい食事を摂る、睡眠をよくとる、といったことはこれまで以上に心がけています。

家の目の前が海岸・砂浜なので普段、天気のいい日の夕方はそこを歩くようにしています。

家の中でできることとしてはス

クワットですね。スクワットを行うことで健康・体力の維持に努めています。

出張の際はよく歩きますが、夜になつて足がつてしまふこともあります。そんな時は運動不足を実感しますので、なるべく階段を使う等、改めて心がけるように気をつけています。

——最後に何か南大隅町のPRがございましたらお聞かせください

本町は、「子や孫と一緒に暮らせるまち」人口減少に歯止めをく」をキヤッチフレーズに定め、重点施策の三本柱「農商工連携」「定住促進」「健康づくり」に「観光振興」「地域支え合い事業推進」を加えた各種行政施策を展開しています。

これから旬を迎えるバッショングルーツ年間を通じて魅力ある農作物が収穫される

また、本町の観光資源である佐多岬・雄川の滝は大隅半島のみならず鹿児島県としても観光の重点事項として推進しており、総合振興計画の基本構想では、まちの将来像「子や孫に感動を伝えるまちづくり」に、「新たな始動、そして躍動へ」をコンセプトにしており、「更なる関係人口拡大」、「IOT・AIを活用したスマートタウンの推進」をキヤッチフレーズとして取り組みを進めてまいりました。



食生活推進員による親子クッキング教室の様子



健康に関するポスター募集の表彰式の様子

昨年3月にグランドオープンした「佐多岬」や、映画「きばいやんせ！私」が全国公開され、12月にはDVDが完成し、西郷どん効果の「雄川の滝」には、多くの観光客が来訪しました。8月には、二ユーフィルドオーブンして九州唯一の1周333メートルの競技場が完成し、スポーツ振興が期待されます。

移住定住と福祉の総合相談窓口

佐多岬から眺める壮大な水平線。人知れず流れる山奥の滝。満天の星空に包まれる夜空。心豊かな町民とコミュニティ。本町へ、ぜひ、お越しください。